朝鮮日報

[illegible]

發行所 朝鮮日報社

各地通信

●門司特報（十五日午後四時發）

鎮城砲兵隊の勇戰

＝地獄林の奪還＝

本日發送された負傷將校の實戰談に曰く [illegible]

彈又彈

[illegible]

恥を雪ぐ

[illegible]

怨を呑んで

[illegible]

憤の念

[illegible]

雜報

錦江の航運（五）

其種類及び隻數を記すれば左の如し

甲　韓船

拾噸以上六拾噸以下　約五拾艘あり多くは仁川木浦群山鎮南浦及其他沿岸各港に往復し主に輸入出内國產貨物の運搬に從事す

拾噸以下（浮舟共）　百五十艘あり多くは下流各浦及全羅忠清兩道の沿岸各浦に往復し主に輸出入内國產貨物及び内地旅客の運漕に從事す

百石以下の河舟　約百艘あり多くは中流各浦に往復し主に輸出入内地產貨物の運搬に從事す

乙　日本船（韓人の名義によりて營業す）

蒸氣船一艘あり毎日群山に往復し旅客の運漕に從事す時に曳船をなすことあり

十噸以上五百噸以下の帆船は約二十艘あり多くは仁川に往復し輸出米殼及び輸入外國品の運搬に從事す

帆舟　八艘あり總て毎日群山に往復し輸出入内外國貨物及旅客を運漕す

外に鯛島の漁期毎年三四月頃には生魚販賣の爲め入港する漁船毎日五六艘に及ぶ

江景輸出入の貨物

錦江より運漕さるゝ貨物は其種別數量等之れを詳知するに由なきも群山に輸入さるゝ貨物の三分の一は錦江流域により江景に轉送さるゝものなるを以て江景の輸出入によりて大畧其大体を推測するを得ん而して江景の輸出入も確實の調査を遂げたるものあらざるも日清韓人の談話を參酌して最近一ヶ年に於ける該地輸出入を示さん

江景輸出入表

輸出之部

種別	數量	價格
米	一〇〇、〇〇〇石	一〇〇、〇〇〇圓
大麥	二〇、〇〇〇	一四、〇〇〇
小麥	五、〇〇〇	三、〇〇〇
大豆	一五、〇〇〇	九、〇〇〇
雜穀	[illegible]	三、〇〇〇
牛皮	一〇、〇〇〇	五五、〇〇〇
雜品	一、〇九四、〇〇〇	

運搬の狀況　約四分の三は陸により四分の一は水路により附近中流地方より運來し全部水路より群山其他に輸出す韓船に依るもの尤も多く和船之に次ぐ

輸入之部　外國產貨物

種別	數量	價格
金巾	五、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
紡績	四、〇〇〇	二二〇、〇〇〇
石油	一〇、〇〇〇	四五、〇〇〇
陶器	一〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
マッチ	一、〇〇〇	三〇、〇〇〇
紙卷煙草	五〇	三、〇〇〇
雜品	……	六〇、〇〇〇
鍋釜類	……	三〇、〇〇〇
小計		七三八、〇〇〇

記事　多くは韓船又は和船により群山又は仁川より輸入すと流及び中流江景地方へ陸路配給さるもの多し

戰雲觀

●媾和の議　獨のグラフィック新聞は左の報知をなせり曰く露國は佛國に内々通知するに若し談判の基礎とすべき相當の條件を取極め得べくんば何時にても和議に應ずべしとの意を以てしたり目下居中調停の主意にて倫敦と巴里の間に通牒往來しつゝあり英國は既に露國の媾和提議を日本に通じたるも左なくば近日之を通ずべし露國の其行動は巴里に於る外債商議の困難與つて大に力ありと思はる

●巴艦隊歸る　佛新聞の報ずる所に據れば波羅的艦隊はマダカスカル島より佛領ジブーチに引還せりといふ

●日英同盟　倫敦市に於て催したる英國自由黨の晩餐會に於てローズベリー卿は自由黨が確かに日英同盟を繼續する準備を爲せる旨内意に洩らしたり

●借款を許さず　巴黎の諸銀行家は平和克復に至るまでは新たに公債を起す能はざる旨を露國に通知したり

●新軍團編成　聖彼得堡來電に據れば露國は新に軍を編制せん筈なりと云へり

●清官を拉し去る　露國カミセルば

●徵兵規則改正

奉天陷落に際し增其將官以下多數の清國官吏を捕し包圍を脫して北方に逃去せり

徵兵の體格は從來身長五尺以上の者にあらざれば甲種及乙種に合格する能はざる規定なりしが右は今回四尺九寸以上の者は總て合格とせらるゝ事となり昨日陸軍省令第五號を以て發布せり

事實物語　日探大尉（其壹）　斗生

日露戰爭開始せられてよりは幾多の慷慨義烈の士や忠勇無雙の士を出して昔日のアゼンの興廢にも勝つた美談は幾らもあるが茲に掲ぐる事實の如きは實に小說中の奇談とも謂ふべき面白き事實である

日探大尉の異名を受く

第〇軍の兵站司令部に日探大尉といふがある露國の國情に通じて我作戰に一大貢獻してあるが故に其名陣中に聞え渡つて誰知らぬ者もない抑も日探大尉とは何處の人よ黄金花咲く陸奥の國一年の半ばは雪に埋もるてふ山形縣東村山郡長崎町の人其名は小關吉郎とて現職は陸軍輜重兵大尉である之が如何にして日探大尉の異名を受けてあつたか其由來を穿鑿すれば洵や小說中の奇物語である

風雲の機會を待つ

東亞の天地に於て我日本と覇を爭ふべき者は何れの國ぞ、そは言ふ迄もなくして世界侵略を國是とするザーを皇帝に戴げるスラブ人種也、露と我とは早晩必ず衝突する壹度は砲火の間に見えねばならぬ、斯く思ふは我國五千萬人衆の久しく覺悟する處にして六七年前廿二の小關大尉も（此時代少尉）深く決する處あり眼を極北の天地に放ちて日夜彼國の露語國情を研究する事に怠らなかつた語を替へて言へば必然來るべき風雲の機會を逸せざる準備に取掛たのである

劍に杖て露領に入る

大尉は日夜露語を研究し初めた其中に宗教上の勢力を有する一露人に親交を得て幾多の便宜を受け遂に露國に留學する事に決した固より官費生ではない唯一本ペン一本の單騎獨行則ち少尉の官を辭し赤裸々の一書生となつて此大目的を遂行すべく浪々として萬重の煙波を超ゐたのである、今や大尉は秀麗なる故國を訣別し行李收むる數巻の書籍數巻、日本刀一振、首尾能く滿州の野に上陸し目的地の西比利亞を跋涉し俯仰して山川の形勢を觀察し其廣大を賞し其豐饒を羨み鐵路に任じて都市塞村縱横に踏破して遂に西比利亞のブルクックに到着する事を得たのである

俳句

口紅にしてほしさうや庭の桃　天奴
三昧の音は師匠よ春の雨
龍頭の松の趣何や月おぼろ
[illegible]代や柳のかげに友をまつ
稽古屋の歸りの路や春寒し
若菜摘む向ふに霞し待乳山　白駒

講談　仇討 武勇の譽（十四回）

本社員速記　小井竹林講演

巴『だが太平さん何しろ此の方も年頃だから左うでもない色街に來て心がかわる勝手色男をおこしらへたのを夫では旦那約束が違ひますといはれては困る夫れだけは斷はつて頂く　太『旦那おつしやるまでのことはございません御當人がお好んでなさるあとは之りや何うも仕方がございません』巴『それじやア百兩渡しませう證文も要らないが御法のおとだから一通りもらつて置うそこで證文と引替に百兩渡しれつぎをつれて巴屋が立ち歸りました後ても　女は宇都の色町の巴屋四郎兵衛方へ身を沈めましたが巴屋は若松屋太平の氣象も辨まへて居ますし稍々話しをきいてつぎ女の身の上を不便に心得日をつけてくれますし別に勤めどいふのでもございませんつぎ女は肌身を穢さすいと悦んで茲に神佛を祈り念じて兄岩見重太郎に一日も早く對面してかたき廣瀬、大川、成瀬の三人に逢はやと月日を送つて居ました話しかわつて重太郎は十七才にて修業にいでゝ七八年を經て今既に二十二歲まわり〳〵て野州宇都の宮へ參りました當地の領主は其の頃宇都宮彌三郎藤原の朝綱古今の名家でございます家來の内にも定めし文武に勝れしものもあるべし修業のため腕前をくらべみんと宇都の宮の城下の入口かたわきに茶見世がございます之へ立寄つてしばらくの間休憩をなさながら重『親父や私は武術修業者であるが當今宇都の宮に匠やら劍術に秀でゐるものもなからうか』○『ハイ旦那樣此の野澤と申しまする處に小浪才藏とおつしやいまして元は名家の御家來だそうでございまして今は大層多く御弟子がございまして劍術や槍術を教へてゐらつしやいますが余程何うもれ出來なさるさうで御道場は御繁昌でございます旦那樣宇都の宮へ御泊りなされるより北小浪先生の處へつゝかけてれ出になりました方が宜しふございませう　重『左樣か夫では左ういたさう何ほどかの茶代を置て立いでまして其の野澤ときくと所に知れました小浪才藏の道場は可なり立派でございます玄關へかゝつて　重『頼む』○『ドーレ何れから』　重『エー手前は九州浪人岩見重太郎と申すもの御高名をしたい一と手のお手合せを願ひたく推參いたしたよろしく御取次此の旨を小浪につげまして早々と入へといふので重太郎案内にしたがひ通て奥座敷へ通る岩見をヂロリと一ト目見ると背高く柔和な顏はして居るが眼光は人を射るばかり天下の豪傑とは一ト目に分ります　小『アー岩見氏と仰せらるか拙者は小浪才藏でござる始めまして御意得ます　重『之は申しおくれました岩見重太郎無調法ものの先生の御高名を慕ひ罷り越しました一と手の御教授に預かりたうぞんじます　重『中々高名なる御人に小浪才藏御相手をいたすなどとは思ひもよらぬあと然し御望みに任せ未熟ながら覺へました槍劍を御笑ひ草までに御覽に備へるでございませう一兩名修業の爲め門人ともの御稽古を願ひたい　重『イヤ其の儀は委細承知をいたしました　コヽデ兩三號小浪の門人が出まして試合つて見たがもろくも重太郎の爲に打負けました才藏心中にて恐ろしい奴か來たと驚ろきまして二間柄の槍を取つて重太郎に立向ひましたがイヤモー何うも小兒のごとくあしらわれました

朝鮮日報

各地通信

●大邱信通（十六日特派員發）

▲奉天占領と大邱　過般の奉天占領は誠に豫想外の大成功にて苟も帝國臣民たるもの手の舞ひ足の踏む所を知らざる比者達一般の慨なるべし之れば當地も號報の當日より各戶悉く一に國旗を出して祝意を表し中には奉天占領紀念の祝提灯[illegible]商衙追悼中なる[illegible]も出したるもありたるが一般市中は案外沈靜にして別段の催しもなく[illegible]漸く近々中を以て居留民全体の祝捷會を催すべく本夕發起人會を開く筈なるが期日は多分來る廿一日　春季皇靈祭か若くは來月四日の神武天皇祭かに決定すべく都合にては同時に居留民の大運動會をも催すべしと云ふ

▲三十八年總豫算　本年度に於ける當居留民會豫算案の內容は大略前信報する所ありしが今其詳細を聞くに經常歲入總額は六千貳百拾九圓六拾錢にして賦課金收入五千九百七拾九圓六拾錢內譯分頭課金壹千六百貳拾四[illegible]營業課金壹千四百七十、關六十錢、土地課金二千八百圓[illegible]七百貳拾圓[illegible]外援[illegible]貳百四拾圓の項目あり歲出內譯は事務所費貳千六百[illegible]、會議費百貳拾圓、教育費壹千六百四拾五圓、衛生費五百圓、警備費貳百圓、救濟費五十圓、土木費壹百圓、豫備費七百四十三圓六十錢にして[illegible]か何れ近々開會の評議會に附し決定さるべき由

▲評議會の改選　前項の如く當居留民會にては既に本年度總豫算の編成を了したれば[illegible]

▲[illegible]　[illegible]

▲種痘施行と現患者　當地に天然痘流行し[illegible]

▲背見の記事に就て　過般大邱通信として[illegible]

[illegible]て背見委員の記事を掲げありしが右は委員事實と相違せるものにして本人は勿論本通信員の迷惑する所なり同氏は釜山に大阪に讓で充分の信用あり且つ賦許證云々の如き全く皆田某の誤聞なるべければ此文を記載せられたし

▲くさぐさ　京城憲兵隊長小山少佐は去る十四日の豊番列車にて釜山より當地を通過し京城に向ひたり▲[illegible]憲兵[illegible]の市川軍曹は頃日特務曹長に昇任したり▲[illegible]夕より向二日間北門外に於て源氏節人形芝居の興行をなす由▲[illegible]須土原興行中なる大紅山常行の角力は當料理店組合の招きにて近々當地に乘込むべしと云々

●林公使の謁見

林公使は昨日午後三時高雄艦長矢代[illegible]を帶同し韓皇陛下に謁見したり謁見の模樣に就ては聞くを得ざるも宮中肅清其他に關し緊急なる事件の委任なりし由

●伊國礦山契約

伊太利公使は金鑛合同契約に關し外部大臣李夏榮氏を訪問し協定する所ありし由は既報せしが該契約は嚮て英國人と訂結せる金鑛合同條約と大同小異にて其の重なる件は左の如し

一、伊太利國人の會社は契約成立の日より起算し二ヶ年以內に鑛區を選擇する事

二、鑛區の定界は廣さ二十里長さ六十里と定むる事

三、鑛山採掘特許は向ふ二十五ヶ年間と定むる事

四、稅金は金鑛純益金の百分の二五と定むる事

●頑迷派の妄動說

昨日許蔫其他頑迷派の[illegible]將たる事は既報の如く[illegible]が許蔫等の一派は多大なる恐怖心を起し[illegible]

●[illegible]

●[illegible]

●磯部子と韓國經營　[illegible]

[illegible]步を買入れ水田の[illegible]

韓國に於ける農業の進步發達を期すると一は韓人をして秩序ある事業に從事せしめんとにあれば今回の事業については專ら韓人のみ使役し且つ農業上の設備の如きも主として韓國に適應するものたらんと圖み且つ千賀及び同夫人は本月下旬若くは來月初旬實地視察として當國へ渡航する由

●對韓貿易の盛況

我對韓貿易は日露開戰以降對韓經營の大發展と共に非常の進步を示し一昨三拾六年度に比し輸出入合計に於て六百餘萬圓の增加を算し七年前の三十一年度に比すれば實に二倍半強の進步を示したり卽ち三十一年度には輸出入合計一千萬圓を出づる事僅々なりしも昨三十七年度には二千六百七十萬圓に達し尙は我國の外國貿易全額と對日本貿易額とを比較せるものを見るに我國の朝鮮に於ける貿易額が韓國と諸外國との貿易全額の八割餘に昇れるを見れば今回の戰爭を待たずして經濟上早く已に吾國が朝鮮に優越せしを知るべきなり

●蔚山方面視察

福岡縣宗像郡神湊田中啓次磯部要平の兩氏は過日來釜中なりしが昨日韓人一名を通譯として更に蔚山方面の實業者及商業雜業等一般の業務に就て視察に赴かれたり

●元山方面の活氣

元山方面は先般來軍事的動活となりたる結果頓に活氣を添へ來り仁川、釜山、木浦等各港の貿易は日本內地の相場不引合ひの爲め米穀の出廻り少なく商況不活潑の觀ありしも獨り元山方面は活氣を帶び來れるを以て鎮南浦、群山、木浦等より元山へ多量の米穀續々輸送されつゝありといふ

●大邱に病院設立

既報の如く同仁會にては嚮に韓國に病院設立の計畫中なりしが此程京釜鐵道會社との交涉稍々纏りたるを以て先づ第一着に同鐵道線路要地點なる大邱の病院を設立するとなり近々工事に着手する由なり

●馬山浦の水產會社

馬山浦に於ける水產物一手販賣市場として[illegible]が今回福田[illegible]郎外[illegible]人同地にて水產株式會社を設立せんとを計畫し資金貳萬圓八百株とし內四百株を同地にて殘り四百株を釜山、仁川、京城方面にて募集するに決定し水產物市場は居留地の南方に新築する豫定なりといふ

●十八銀行の京城支店　長崎なる十八銀行にては今回仁川の外京城にも支店を設置する筈にて目下敷地の買收中なりと云

●五十八銀行鎮南浦支店　五十八銀行鎮南浦支店は諸般の準備整ひ昨十五日より營業を開始せり

●吳服組合設らん乎　當港吳服組合業者は三十餘名あれども未だ同業組合なるものの組織なきより兎角圓滑に行かざるに依り今回該組合を組織すべしとの說盛んなり

[illegible]屢々記せし[illegible]として一隊補充兵[illegible]支店において[illegible]をなさしむる豫定な[illegible]付きたる服裝は一は[illegible]

●吳服界のきのふけふ　昨年の二三兩月は京釜鐵道工事ありし爲め渡韓者も多く且つ朝鮮內地に入る人多かりし爲め吳服類の賣行頗るよく好景氣なりしが本年の二三兩月は別に目立ちたる景氣にあらざりし而して昨今は冬物と夏物の別れ目とて格目の客多く餘り思はしからざる模樣なり

▲辨天組と唐津組　辨天組は三十餘臺の人力車を以て草梁間の往來客を募り唐津組なる同業者は草梁停車場を根據地として運轉しつゝあり爲めに競爭を免れず殊に昨今に至り草梁間交通の度は頗る增加せしより

▲客馬車不許可　幸町より草梁間に於て客馬車往復設置の計を發し其筋に請願したるも道路の狹隘なると其他營業の理由ありて不許可に終れりといふ

●ピラミッドの流行　寫眞でピラミッドは昨今非常に流行し居れり

●今年の招魂祭典　當港龍頭山琴平神社祭典は[illegible]定期祭典は何れの向にても花々しく例年に[illegible]盛大の祭典を執行せん計畫中なり其の理由として時局の進捗豫想外なると當港の發展[illegible]高きと共に隨つて當港の發展をも促すべき好時機なればといふにあり

●湯屋と衣類取締　湯屋に於て衣類を盜難に罹る[illegible]本邦內地と異なる[illegible]殊に當港の如きは今に至り甚だしきを加へ來るにより當警察署にては近日同業者一般に衣類持品を嚴重取締るべく諭示を發すべしといへり

●牧の島の工業地　牧の島の工業地[illegible]東氏の談に曰く當港は水利の便甚く[illegible]將來工業地たる能はざるは何人も認むる所なり然るに牧の島は水利の便是れ有るなれば將來有望の工業地たらん云々

●夏物の仕入期と賣出期　吳服夏物仕入期は四月上旬として賣出期は全月下旬になるべしといふ

●飲食店の繁殖　昨今西町各町內に飲食店の繁殖しつゝあり是等は一時の現象に過ぎざるも波狀者の多き是れに依りて推知するを得べし

●開拓業者來る　本邦仙台の資產家湯谷[illegible]治は當韓國內農業の適當地を極め開拓農事に從事する爲め過日故鄕を出發したりといへば不日來韓するに至るべく

●野村氏の出張　當郵便局事務主任野村氏は東萊郵便受取所設置調査の爲め出張中なりしが本日は歸局さるゝ由

●宮中の肅清

皇帝陛下は近來雜人の宮中に出入して其平和を破り肅清の實事ら起るを嘆せられ今後賤役を行するもの外宮中に出入することを嚴禁したれ亦雜輩は大に慴伏し昨今宮中に足を容るゝものなきに至れり

▼城津領事館開設　城津地方は開戰以來交通杜絕し領事館も閉鎖せられしが今や右地方の狀態稍回復し愈々開館することとなり川上領事館主任は不日京城出發赴任すべしといふ

▲野部の來釜　外務省警部野子友登郎氏は昨日神戶より來釜されたるが本日京城へ向ふ筈

公人

▲山縣枝七　大野歌吉氏と共に昨日來釜松林旅館へ投宿

▲馬山鐵道鐵築班技師　鈴田和良氏は全日中上旅館へ投宿

北日本と韓國

維新革命の事あるや函館に抗せるの故を以て爾來本邦東北人民は幾多の屈辱、幾多悔辱を被がざるべからざるの逆遇に立ち人物の出るなし事業を見るべきなき殊に其移民の如き能力と比較して甚だしき差を示し居るは嗟嘆すべき事なり殊に當韓國とは其の里程も遠く交通も不便なりし爲め今日豫州、山口、長崎縣人が自國の如く晝夜なしで渡韓せる方面に活動しつゝあるにも係らず登の機關登の團體でも無きは甚だ經營遺憾すべきなり然るに今や滿韓の聲漸く高く本邦より續々渡韓者あるの期されば此際開拓に商工に大に渡韓發展を試みんとて全地方人中實業家[illegible]事業家等登の團體を組織し視察或は經營に渡韓する策を計畫中なりといふ

●長承浦の有望

福岡縣宗像郡水產組合長黑木太郎氏外十名は去る十四日來釜當水產組合本部の巡邏船に投乘して巨濟島長承浦視察の爲め赴かれ昨日歸來されたるが視察の模樣を聞くを得たれば左に記せん

元來私等が此度視察に來ましたのは朝鮮水產組合本部より縣移住民の獎勵方に就て照會があつたので移住根據地を設く前に一應實地調査を經た後に致さうと思ひまして來たのです同地には當水產組合本部から七十五戶の家屋を建設してありますで移住者も大分ある樣ですが然し永住的思想を以つて來る者は至つて少い故に鯛の漁獵期を終れば本國へ歸り鰆の漁獵期になれば又々出て來ると云ふ塩梅で目下永住して居るのは和歌山縣より五戶長崎縣より一戶のみで至つて寂しい方です從つて生活の程度も低い樣です其の中私等が感心したのは長崎縣人で西松浦郡の呼子村から金丸某と云ふ兄弟が移住して居りましたが之は漁獵片手に日用品を賣捌いて居りますが年は兄の二十一弟が十六七でありまして二人の話しに依りますれば目今は斯く寂しき村でありますけれ共來年は乾度八月も增加する事と思ひますから私共は余念なく勉強して居ります云々と語つて居ました斯く丁年又未滿の者が斯かる孤島に僅かに五戶の人を相手に商賣して居るも健氣な心ざし感心しました此水產組合からは十五戶を每々に補助しましたが私の處から移住させますのは漁獵期にのみ出稼する樣な事は致しません永住的の方針で若し思ふやうに行かぬときは本國へ御座りまして漁獲は總て釜山地方へ賣捌く方針です[illegible]現に角間地は有望な處と思はれます其の外馬山浦及鎮海灣にも根據地を設くと語られた而して氏は外一名を隨へて鎮海灣方面へ漁夫二十餘を率ひて本日赴かるべしといふ

●韓國の貿易（目賀田顧問の談）

韓國は甚だ解釋し易からざる國なり殊に實業上の關係に至りては風俗人物を異にするを以て日本に在りては考へ及ばざるもの多し從つて從來の對韓貿易は大阪神戶の占むる所にして東京及び橫濱は殆んど全く關係を有せざる有樣なりき然るに今日東京商工業者は對韓貿易に就て大に考案を費さゞるべからざる時期に到着せり何となれば韓國は土地廣くして殆ど帝國の本土と均しき面積を有し民衆も先づ一千萬人と稱せられ然も未開にして帝國の業の發展を試むるに十二分の餘地あるを以て也

●韓國生產品の不振　韓國の現狀を見るに政府制度適當ならざる爲め豊般經濟界の狀態は窮息し就中收稅制度其當を得ざる爲め諸般の事業は萎縮して伸ぶるあと能はず殊に曰く「豊年は韓國農民の喜はざる所也何となれば農作物の收穫物多なれば從つて租稅を徵收せらるゝあと苛重なれば也」と斯の如き有樣なれば金目の物を用ひ若くば金を貸せば常に重き稅を徵收せらるゝに依り金は隱し置きて毫も[illegible]の增殖を計るが如き子となし例へば陶器の如き本邦へは往昔韓國より渡來せしものなる[illegible]も現今に於ける韓國製產品は拙劣[illegible]意匠形狀共に拙劣を極め居り[illegible]品も亦同樣にして見るに堪へざるが其[illegible]に至れる原因を探究するに[illegible]改良を講せざるが爲め[illegible]に依りては身代限りをせざるべからざる[illegible]に立至るあとあり何となれば[illegible]は從來一定の標準價格あり[illegible]良品を造るも價品の品質に[illegible]る能はず從來の顧客代價に[illegible]上げを嚴禁せられ[illegible]物の改良は甚だ人を招くの基となるを以て今後改良を行はずと云ふ而して其の[illegible]大抵五十年前[illegible]評定せられたるものにして物に依りては比々皆然りとす

▲服裝品改良の注意　元來韓國は武斷以て治められ來りし[illegible]然るに[illegible]は全く文事に偏したるを以て從て人民の氣象は遂に文弱に陷り其結果理窟に趨き形式を尙び政治は勿論社會の事總て理窟詰めとなり規則の多きも其實行は之れに伴はず例へば服裝の如きも階級に依り夫々の規則ありて服裝の色合は豫定し居り其他器物も色合形狀に豫定の制限ありて色彩、形狀、意匠模樣等の獨立せるものなし故に本邦生產品を韓國に輸出するも織物に就て云へば織物は紅色にして唯赤、靑、黃、紫、黑等豫定の單色物だけ需要せらるゝのみ而も目下は喪中なるを以て人民は總て白色の外着用する能はずして新年色物を仕入れたる商人は非常の損失を招けり

●大商店訪問記（六）

▲村上藥店（西町）　今氏は頗る溫和の人にして長く該商に奔走されたる丈ありて藥業上に就ては仲々詳細なり全氏の談に依れば目下全店にては醫用工業藥品賣藥其他の藥店を初め洋酒雜貨物も商ないおるといふ

記者曰く理髮店、彫刻店、料理店、旅館等の稼業は商店と謂ふべきにあらざるを以て他に何等か適當の名を附して訪問せんとしたるも一寸適當の名なきを以て矢張り商店訪問記中に加へることにしませう

▲上村藥店（辨天町）　訪問に接せられし店員語りて曰くキナエンホゼ、いふ當時の刺戟的藥劑は韓人が最も歡迎する藥品にして將來有望品が益々好望ならん同店の藥品はソマトウゼ等の滋養劑を初め百餘種の藥品を以て店內を飾りつゝあり

▲新納金物店（南濱町）　今店を訪ふ店員二名語りて曰く昨今[illegible]の需要とするは多く鐵にして諸金物[illegible]品用多く大に望みありますと述べ[illegible]道の韓人は自分の使ひよき樣に[illegible]註文した[illegible]の談に[illegible]鐵鍋を[illegible]としても近く鐵工所に[illegible]作り直して使用致します云々

▲藤榮商會（幸町）　新たに開業せんとする藤榮商會を訪ふ店主不在店員語りて曰く是から和洋小間物を商ふ計畫でダイブ商品を整つて居ります仕入先は東京大阪等で流行もの又は嶄新なる商品を陳列する計りです云々

朝鮮日報

手形出來申さず

小説

新作小說 みだれ心 東京 小野田翠雨

「まあ、いゝお月夜！」

照りたるおぼろの光を浴つて、その月の光を眞正面にうけた、顔に少しく窶れの見ゆる二九ばかりの女、月を仰ぎし清秀の眉目には、白露の雫か、はた露か、光は宿つて、暫しう眺めり。

さう、恰度今夜のやうな雲おぼろ夜、しかも一年前の──里川の橋も今夜は昔のまゝで、搖籃の影もなつかしう見ゆる、遙か向ふの鍛冶の側み──早く、急いで行つて、一時でも、あの擬寶珠欄干に凭れて、銀の屑を撒いたやうな、小砂利を洗うて流るゝ川面に、私の姿を映して見たい、すれば、あの杉男さんが私の頭筋に手をかけて、貳人顔を並べてる影が映るかもしれない、いゝえ、屹度映るよ、ゆふべ澤山という夢を見たのも、杉男さんがさうして見せたいと一心不亂に念じておらしたのが、私にさうしろと、夢に見せたのかもしれない。

あゝ、何卒して、懐しい杉男さんのお顔が見たい、「才でない」から拜したい、まァ、さぞ戀して何那に杉男さんが懐しいだらう、私しお戀れ申ふのも、ヤッぱり杉男さんが私を可愛がつてくださるからに相違ないが、あゝ、おんまり戀しくて、戀しくてたまらない。

今夜も戀那に、いゝお月夜あのに戰地に在る杉男さんは、鐵砲擔いで、乾こ歩哨にでも立つて、お空を仰いで、あの、お月樣や、あの、わけも私の眼に映る、煌々お星樣を眺めてらしッて、而して、優しいお胸の中に、家内の事や私の事なんかを思ひ出ずつて、矢ッ張り私のやうに、御眼に涙を浮かべてらしッてたおやあるまいか、あゝ──お母樣か、例の如く無理な仕事を私に云付けて、窘しめてるだらうなんてことを──。

堪まらずなつてか、鐵子は、歩を止めて紅襦袢の袖の袖としぼり、今、ちぎれ雲間を流れいでし月影を、眺と見あげて、ふたゝび柳の橋を目當に、歩を刻み行く。

●激藥を飲で死す(横濱) 大阪北門外旅人宿東京館に於て大分縣直入郡松本村字弁 藥種商大野基馬(二十)が激藥を服して自殺せし事は取敢取昨紙報道せしが尚聞く處に據れば全人は去る四日門司より當地に來り醫術開業の目的にて大邱へ向ひ前記の旅人宿へ投宿し例の仕事もなく浮浪と日を送る中貯への資金も費ひ果し同宿中のもよ…

●戀猫屋根より落つ(晋子裕千の大久…)

一昨日さか五十錢さか借りて其日を經り居りたるも見ず知らずの者に何ば慈善家でもなきを誰すものでなく誰も顧らぬ始末となり居る處へ稲まより新報の催促を受けれるよ𛀁つい後樂な心得違ひより持行せの激藥を服し自殺を遂げたるなり

戀は曲者お阿笑者、春は囀りの羽れ戀、夏は涼みの舷戀、秋は壯麗の妻よぶ戀、冬は炬燵のチン戀戀、其いろ〳〵の戀ある中に三味線片手の猫戀は先れは金故を申すべき程の屋根を修よて道通、戀は深人なれはすべき野暮な記者にはドンナ客のつけやうも御座らぬ故戀猫屋根より落つと題して申上るは珍無類飛切の大出來事、時は去んぬる十四日舊暦七日の月は、一に山の端1隱れて早ホも睡る丑滿頃 幸町は浮た商買勞働の屋根傳へ忍び出てたる一個覆面の影坊子、時座ンなれや狐雞もの、深夜の覆面おぜに稲根傳ひとは探偵か夜盗の類か何よせよ出者、容易ならぬ曲者ど暗なから瞳を凝して眺むれは影坊子は斯くども知らず、恐わ〳〵ながらヌルリ〳〵と歩を運ばし瞬りの家根に移らんとするおぇ、夜霧の密きか延許の定かならぬしかどソコ迄分らねど如何なる機みにや足滑らしてアハヤと見る間にズデンドー……物の見事に墜落したれば是はご驚く其中に此物音に驚いて駈出る人々はヤーヤ夜中の騒動何事ならん出合い〳〵と互の掛聲提灯明火てん手に振り上げ呻吟く方に立寄れはコハ抑も如何に二度吃驚く計りの大男が恐ろしやの月も羞つる顔はせ花柳の里に其名雷より高き愛子裕子かん僞はしや屋根よ落つて姫御前あられない醫部前部其他傷手おん顔しめてつく〳〵と涙は困に捕へたまへば氣の毒やで愛未は何の事で此有樣と仲居がしかれば主人は目を驚かし─是には何る樣子かある病所に渡し包まず語れと急き立てられ愛次は涙押しぬくい眼をうつらし賤ふも戀しさうなから誰ある妾が戀ふおん方はコヽ釜山に○持の若旦那樣なが未だ部屋住居の悲しさには逢ひたさ見たさか飛立てど人目の關にへだてられ戀し〳〵の夜は更ケれた女にあるまじき夜毎〳〵の屋根傳ひ戀なれはこそ此かた許したまいさ涙〳〵、木人聞くより胸つぶれむやさもあらん我も昔しは若勞の果思やこひと目をしばたゝけば並居る人々何れも感に打たれて淚なり記者も豆の如き涙を拭きました(但し可笑しさに)斯くて愛次は腰の邊に傷所を負はれたるとかにて直樣和田野病院に入院せられたる由

すは御用意の方へは早速御見舞にまかられ不粹の役ち呪殺さる、事必定なるべし

ゼヽ、芸妓よそれぞれ

名高き寶石… 昨日限り足を洗ふ

二平町三浦樓初子事本



▲播磨町かしわや金島政の探寶お歌の奴には俳諧かあるぞ(〇〇生)△釜山港市中に公設便所を設けて貰いたい(チビリ女)△野暮生君よ余も君の御説の通り武術鍛錬は双手を擧げて大贊成だらあで當釜山に相當の武術の先生か有るなら一寸本欄まで御報知を乞ふ(興成子)△大廳町に日本武術道場と云ふものがありますよ(師り)△俳句に巧なる藤屋金島なる人ある噂だが同氏よ、名句を日報紙上に投稿せられては如何(たぶせ生)△新聞屋つてホンヤに嫌な奴たはれならを放つても直ぐに出すものをおチャッピ)△慈善家に訴ふ僕は或る社へ奉職中の者ですが誤つて正直者なる為め薄給の身には物價高貴の當港では當… 一生懸命出來ないから無料にて下宿させて戴きはなきや(薄給者)

釜山商況

▲米穀 正米は勿論雜穀類も殆んど無く商況は丸で火の消へしと金融の途絶なる為め鮮人等も云へば保合なるが取引は皆無なし 大豆丈けは高値となるも赴又氣焰なる

▲村木板類 內地人の渡來倍々多く家屋は次第に拂底なる爲め家屋の建築は此處彼處と建並べらるる所なれとも有々好況なり

▲麥粉、砂糖、依然變動なく紡績糸、織物類も賣行面白からず石油は弱氣の登方に立て昇騰の見込なく食鹽も相場に變りなし

▲雜貨 荷物輻輳あれども相場と異狀なき爲め近頃に出廻らず商況は不振なり

廣告

醸造元 千葉縣銚子港 濱口儀兵衛

名譽金牌受領 (京都府農業博覽會大賞)

宮内省御用達 第六號御指令

最上醬油元祖 上キ

釜山西町二丁目 廣田醸造場附屬販賣部

注意

韓國特約販賣元 大樽入、一斗入、四合瓶詰アリ 近來奸商ト狡猾ニ偽物ヲ詰込販賣スルモノアリ御買求之節封印ニ御注目ヲ乞フ

營業開始廣告

當地水産物市場ヲ建築中ノ處今般落成ニ付本月十三日ヲ以テ營業開始致候間此段廣告仕候也

京城南大門外 株式會社 京城水產物市場

廣告

弊店義從來西町三丁目ニ於テ營業罷在候處各位ノ御愛顧ニ依リ日ニ增シ繁榮ニ赴キ候ニ就テハ到底此迄ノ店舗ニテハ狹ヲ感シ候ニ付今般西町二丁目荒木酒場跡ヘ買受移轉仕リ全時ニ熟練ナル技師數名ヲ雇聘シ酒類ノ四季醸造販賣ヲ開始シ尚最上醬油ノ元祖タル山サ印醬油ノ韓國一手特約販賣モ益々擴張致シ以テ各位ノ御厚意ニ報ヒン爲メ御便寧確實ヲ主トシ御利益ヲ相謀リ可申候間倍舊ノ御引立之程偏ニ希上候

山サ印醬油韓國一手販賣元 西町二丁目 廣田醸造場附屬販賣部

營業課目

大阪京都地方と連絡を通じ雜貨類野菜乾物類の輸入致居候に付ては何品によらず誠實迅速を旨とし御委託品の賣買に應じ可申候

●業務擴張●

節は何品によらず御入用の

京都產野菜類韓國一手特約販賣

雜貨輸出入商 諸品依托賣買業 釜山港西町五丁目(大廳町學校前) 山口三郎 電話(二百參拾八番)

獨逸直輸入 純良 アルコール

釜山南濱一手特約販賣 大黑藥店

●漆器類シナカバン其他新古日用家具 石卸小賣廉價販賣

●●御不用品何でも買ます 諸品競賣委託應す

古物業 雜貨商 幸町三丁目 油谷商會 電話二五七番

●●●有價證券賣買 電話讓渡讓受委託に應

至急ノ方ハ御報知願上候

右確實を旨とし取扱可申候間御用向仰付被下度奉願上候

公認 周旋業 幸町三丁目 津田光藏 電話二五七番

産婆 福岡縣産婆試驗合格 諸習所卒業 釜山ヲタヤ町竹岡内 神保ヨシ

たばこ 小間物 雜貨 靴 製造 販賣 南濱町三丁目九 井筒屋

解雇廣告

赤組々員 有田森太郎

右者今般本組ノ都合ニ依リ解雇候ニ付テハ自今關係無之者シ本組各位御得意先ニ對シ荷物運搬ノ申込スルトモ御委托無之様申添候也

幸町 赤組

御得意各位

拙者義今回應召來ル十七日入營ノ途ニ就キ候ニ付テハ一々拜眉御暇乞可申上筈ニ御座候處出發時日切迫ノ爲メ失禮紙上ヲ以テ此段知諸君ニ謹告候也 尚不在中ハ不相變御引立ノ程奉願候

勳七等 大谷平次郎

商標

驅毒清體 麻病藥

음질외는무쌍훈신약이요

麻病志よかち、くさの妙藥

製劑發賣局 滿韓賣藥商會

銘葉 精選 刻煙草 の

定價 第一號 三十五錢 第二號 三十錢 第三號 三十五錢

但シ卸賣ハ特ニ割引仕ル可ク候

發賣元 釜山北濱 鵜池商店

北海

味噌、醬油、酒類、罐詰、ラムネ、サイダー、ワイン、ブドウ酒…

京釜鐵道草梁驛前ヨリ京城停車場間ノ各驛社宅ニ御用一切ノ商品ヲ販賣スルヲ以テ目的ト致居候

辨天町十三番 北海屋商店 (電話二百三十八番)

草梁驛社宅前 北海屋支店 (電話架設中)

本店ニテ販賣外ニ乾物野菜並ニ製造所ニテ製造シ牛肉ノ小賣… 販賣ヲ致候

西町一丁目(下條氏ノ隣) 北海屋西町支店

目下專ヲ軍用牛肉罐詰ノ製造致居候共尚餘力有之候故此際ヨリ罐詰ヲ製造スル事ト致候ニ付魚貝ノ罐詰ハ多少ニ拘ハラス御用被仰付度候 猶々各出入ノ御肉罐詰格外低價ニ販賣致居候間御試用ノ程伏テ奉願上候

富平町 北海屋所屬 柏寺罐詰製造所 (電話架設中)

明治三十八年一月十日第三種郵便物認可